

令和2年度 新型コロナウイルス感染症対応市民活動チャレンジ助成事業 交付決定団体 一覧

交付団体 事業名		事業内容	交付決定額
1	STEMおきなわ 「COVID-19第2波においても学びを止めない教育チャレンジ事業」	コロナ禍でも児童生徒の学びを止めないようオンライン授業ができるようにするため、教員のICT指導力養成を行う。8月に泊小学校と城北中学校において、研修5回×2校=10回。9月に児童生徒の発表会。その後他校への実践紹介、普及支援を行う。	¥1,000,000
2	災害プラットフォームおきなわ アンダーコロナにおける地域防災モデル調査事業(曙小学校区)	コロナ禍の中、大規模災害が複合的に発生した場合を想定し、地域における学校施設(指定避難所)を広く活用する地域防災モデルを調査・検証する。避難者の体調や福祉的対応を要する方、ペット同伴など明確にゾーニングを行い、限られた施設資源をどう活かすかなどを検証する。協働による地域防災モデルとしている。	¥994,000
3	特定非営利活動法人 地域サポートわかさ わかさオンライン学習支援プロジェクト	若狭公民館にてオンラインで無料塾を開催。9月～12月の毎週土曜日12回程度。就学援助受給世帯にはPC及びwifiを貸与する。家庭・保護者との関係構築、学習についての伴走支援を行う。	¥1,000,000
4	曙小学校区まちづくり協議会 パーラー公民館の再開事業	若狭公民館と曙小校区まち協で3年間行ってきたパーラー公民館は一旦終了した(文化庁補助金)。この間できた多世代とのつながりを絶やさず、居場所づくり、地域の課題解決のためパーラー公民館を再開する。曙公園や曙小でおもちゃ病院を開院(おもちゃドクターが壊れたおもちゃを修理)、防災講話や防災訓練(避難所ゲーム)を行う。7月～2月。	¥380,000
5	災害プラットフォームおきなわ 「感染症拡大と緊急事態下における市民活動連携及びBCP提案事業」	コロナ第2波、第3波を見据えて、先般コロナ禍で立ち上がった様々なプロジェクトの活動内容の検証や気付きを取りまとめる。実施方法は、活動拠点へのインタビューを行い、その内容について報告書を取りまとめ、広く市民が閲覧できるようWEB掲載する。	¥496,000
6	しんぐるまざーず・ふぉーらむ沖縄 「コロナ禍におけるひとり親と子どものためのセーフティネット構築事業」	ひとり親家庭のコロナ禍による影響を目の当たりにし、支援者や企業からの寄付、食料提供を受け緊急支援に取り組んだ。この支援を継続させ、行政との連携やひとり親家庭の相互交流を通じた活動を強化・改善する。フォローアップ支援のほか、個別相談のデータベース化を導入する。	¥494,000
7	VONS 新型コロナウイルスの影響で困窮した市民に食糧を届ける高校生など学生によるMUGむぐプロジェクト(まーさん、うちなーごはん)	コロナ禍において食糧調達が困難になっている世帯が急増し、その数と深刻さは日増しに悪化している。2か月に1回程度市内ショッピングセンターやモールにて食糧寄付を呼びかけ食糧を調達し、困窮世帯等へ配付。食糧収集の仕組みが確立されることで食糧支援が受けやすくなる。	¥478,000

¥4,842,000